

第16回 宇和島市立伊達博物館建替委員会 会議録

- 日 時 令和4年10月31日(月) 14:00~15:10
- 場 所 総合体育館 2階 会議室
- 出席者 [宇和島市立伊達博物館建替委員会委員(順不同、敬称略)]
木村宗慎、廣瀬孝子、二宮信彦、宮本直明、有間義恒、
宮部雅輝、森田松次、三好めぐみ
[事務局]
教育部長
文化・スポーツ課長
伊達博物館(館長、課長補佐、係長、学芸員)
丹青社
- 欠席者 二宮一之、牧野勲
- 議 事 (1) 報告・説明事項
 - ①展示構成(案)について(資料1)
 - ②展示専門部会の答申について(資料2)(2) 協議事項
(3) その他

次 第

- 1 開会
- 2 議事
- 3 閉会

■会議の記録

1 開 会

(事務局による司会進行)

- ・ただいまから、第16回建替委員会を開催いたします。

それでは、開会にあたりまして、木村委員長から一言御挨拶申し上げます。

委員長

(委員長挨拶)

- ・本日は、前回の委員会の時に、有間委員さんをお願いして、展示専門部会部会長を引き受けていただき、2度開催された専門部会の御報告を、主に常設展示のプランについて、現状の計画に対して委員の皆さんからの御意見をいただいて、展示構成に対する我々の回答としてまとめさせていただけたらなと思っております。どんな小さな御意見でも結構ですので、どうぞ活発な議論をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局

- ・ありがとうございました。
- ・本日の出席委員、10名中8名、過半数を超え、会議が成立していることを報告させていただきます。それでは議事に移りますので木村委員長、お願いいたします。

2 議 事

(1) 報告・説明事項

①展示構成(案)について

委員長

- ・議事に移りたいと思います。(1)報告・説明事項の①展示構成(案)について、丹青社から説明を願います。

丹青社

- ・新伊達博物館展示構成(案)について御説明します。基本的な考え方、実施方針と期待される効果として、1.文化財を守り伝える。2.対象は宇和島全域、宇和島圏域全体の資料を扱う。3.ふだん使い・憩いの場。4.市民みんなで活動

していく。こういった事で、宇和島市の活性化の知恵袋として、地域振興・ブランド力向上に寄与します。次が施設構成です。公開承認施設水準に基づき資料動線と利用者動線は明確に区分します。気軽に入りやすく、ふだん利用できる施設を目指していきます。貴重な文化財は、利用者との動線を明確に区分、収蔵と展示は2階で行うことにより災害リスク、主に津波に対して軽減していきます。次に展示の役割と流れについて、展示の冒頭で、気持ちを引き込む・興味を強く持つことにより、その後の展示に興味を一層深めてもらいます。歴史に詳しくない人でも、常設展示の中身を御理解いただき、知識を持って2階の企画展示を見てもらうと、また違う気持ちになるんじゃないかならうかと考えております。そして、その気持ちを持って、実際に宇和島のまち、宇和島市内全域を巡ってもらう、そういった事に役立てれる施設であればいいんだろうなと考えております。次が展示の基本的な考え方です。市民が気軽に利用できるように、訪れる人々に寄り添った展示空間を目指します。まず入りやすいという事、明るく開放的であり格式ばらない、それから滞在しやすい施設、バリアフリーに配慮し、くつろげるエリア、こういったところを大事にしていきます。それから何といても解りやすい、使いやすい展示とします。いつ来ても新しい要素（更新性）だとか、通常の解説とは別に楽しい展示解説（トピック）がある、来館者が参加できる、こういった事を大事にしていきたいと思います。展示全体のイメージですが、1階の参加体験型コンテンツで親しみ、2階の本物の魅力で深めるという事です。1階は誰もが気軽に立ち寄れる機能や、宇和島の歴史文化に興味を持ってもらう、深めてもらう機能で構成します。2階は伊達家の資料を中心とする宇和島の文化財

を展示して、より興味を深めてもらいます。また、災害リスクの観点から、文化財は2階でのみ展示します。全体を通し更新性・可変性に留意した展示とします。1階の常設展示の考え方ですが、エントランスホールで迎え入れて、宇和島の歴史文化に興味を持ってもらうきっかけを提供するとともに、展示を通して得た気持ちで、まちを巡りたくなるようにしていきます。それから市民がいつ来てもくつろげる展示やイベント等、いつでも参加できるようにして繰り返し来てもらうようにします。多士済々の先人たちを視点に、宇和島の通史を概観できる展示を新たに設けます。過去と現代をつなぎ、先人たちの足跡が今の宇和島市を形づくり、その痕跡が残されていることを実感してもらいます。宇和島が最も輝いた時代を紹介し、観覧者の気持ちを強く引き込むとともに、宇和島の未来について考えた展示を1階で構成します。2階が企画展示、公開承認施設を目指した文化財に安心・安全な展示空間です。これまでの数多くの文化財展示の実績を活かして、旧宇和島藩全域を対象としたテーマの企画展・特別展を開催していきます。現在の博物館より効率的な空間配置、規模、資料の性質によって自由に用途が変更可能となっております。資料替えの労力を軽減し、汚損リスクを最小限に留めていきます。次に常設展示の展示構成についてです。宇和島の歴史文化に興味を持ってもらい、深めてもらう事です。

「宇和島先人口ード」と名付けております。歴史を駆け抜けた先人たちを通し、宇和島がたどった道を知ります。近世近代を中心に、南海の雄藩として存在感を示し、歴史を動かした多士済々の先人たちの活躍とこゝろ跡をたどることにより、優れた人を育み、優れた人から愛された宇和島の魅力を知ってもらい、旧宇和島藩、旧吉田藩のすべてを対象にしてい

く、歴史に埋もれた様々な事象を紹介していけるように、定期的にコンテンツを更新していくような展示を目指していきたいと考えております。この構成が、宇和島先人年表です。先人を視点に宇和島の通史を概観、先史時代から現代までをその対象とし、近世近代を中心に扱っていきたいと思っております。それから通史展示、宇和島の先人たちの、縄文遺跡や貝塚、藤原純友など先史以前の「宇和前史」というのも説明する。それから初代秀宗公が入封してからの宇和島の歴史文化を宇和島藩・吉田藩の先人たちを時系列で紹介していきます。そこから財政再建の中興を経て、特に幕末・維新期の先人たちの活躍を宗城公を中心に大きく取り上げていきます。その後、近代から現在まで、中央に出て各分野で活躍した先人たちを紹介していきます。模型造形、映像、複製等の展示手法を用いて、とにかく解りやすく展示する事、更新性について重視していきたいと思っております。幕末維新期の先人たちをシアターで紹介しようとしています。日本の歴史の転換点にこの地が、先人たちが深く関わった事を知ってもらい、観覧者の気持ちを強く引き込めるように考えております。中央に島があるんですけど、これをトピック展示としまして、現在に伝わる城をはじめとする景観や街並み、文化、伝統行事、民族芸能等が宇和島の歴史と紐付いていることを改めて知ってもらいます。定期的に更新して、数多くの隠れた歴史を知ってもらいます。それから宇和島時層地図、江戸時代の城下町の絵図から近現代の地図を重ね合わせて見られるようにします。明治以降は国土地理院の地図まで結構ありますので、そういったものを重ね合わせまして、例えば明治時代ここはどんな場所、そういったことを知ってもらうような地図を作っていきたいと思っております。ここで古写真も見られ

るようにするんですけど、市民から昔の写真とか、現在の写真を集めて、ここで投稿してもらって、親子で対話ができる。そういった展示ができればいいかなと考えております。市民が気軽に足を運べる工夫としまして、常設展示、「うわ！じまん」屋内や屋外へ自由に展開できる可動式展示什器を作っていきたいと思っています。市民が自慢したいものや最新情報を自由に投稿できる可変性の高い展示、屋台のカートみたいな物を作りまして、映像の展示があったり、八つ鹿の絵付けができたり、武器武具なんかを持って記念撮影ができたり、そういったものの役割を持たせて展示していく事を考えています。将来的には市民に貸出しして、活動を博物館外に広げていくことも検討できればいいかなと考えております。

「うわカーゴ」と名付けております。天赦園側に、ちょっとした舞台を作ろうかと思えます。展示室とロビーをつなぐ空間に、人が滞在できる空間として作っていきたいと思えます。段畑のような舞台で、市民がいつでも自由にくつろぐ事ができる、お祭り等、四季折々の催事にあわせたミニ展示や図書閲覧等、自由に様々に利用できるような、そういった空間があればいいかなと考えております。それからキッズスペース、小さな頃から宇和島の歴史文化に親しみ、まずは未就学児を中心に、親子で遊べる宇和島の歴史文化にちなんだ遊具、例えば宇和島の特産品とか、鹿踊りや牛鬼、そういったものをモチーフにした遊具を想定し、小さな頃から宇和島の歴史文化に親しめるようにする。それから様々な年齢層も楽しめるように、隣の研修室も用いて遊びのプログラムを拡大できればいいかなと考えております。本日の展示構成（案）をパブリックコメントの資料としたいと思っております。御協議の程よろしく申し上げます。

委員長

- ・ありがとうございました。
- ・ただいま説明のありました展示構成（案）につきまして、展示専門部会を設置して、御協議いただいております。その答申につきまして、専門部会長の有間部会長から説明をお願いしたいと思います。

②展示専門部会の答申について

部会長

- ・第15回伊達博物館建替委員会において諮問された事項について協議・検討した結果、次のとおり意見を取りまとめましたので答申します。

1. 展示構成に係る考察について

- ・現伊達博物館の最大の魅力は、宇和島伊達家伝来の実物資料を観覧できることにある。一方で、そのことに特化しており、宇和島全体の通史について解りやすく概観できていない現状にある。
- ・基本理念の一つでもある「地域の歴史文化の再生、共創の象徴となるべき博物館」を目指していく必要があると考える。

(1) 常設展示全体について

- ・将来の宇和島を担っていく子どもたちが何度も足を運び、郷土に誇りを持てるようにすべく、小中学生、高校生も巻き込んだ展示や活動を計画する。
- ・宇和島全域を展示対象とするため、旧宇和島藩と旧吉田藩の成因や関係性をしっかりと伝える内容とする。
- ・災害リスクを踏まえ、原則として1階常設展示室では複製、模型、造形及び映像等の展示手法を用いるが、その場合においても、わかりやすく、実物資料の観覧や歴史に興味を持たせるような展示を計画する。

(2) 先人ロー
ドについて

- ・現在の宇和島を特徴づける、宇和島藩や宇和島伊達家を中心とした、近世近代を大きく取り上げることは良いが、基本理念にもある「地域の歴史文化の再生」を具現化するため、先史から伊達家入部までの「宇和島前史」も踏まえた時代背景や、吉田藩成立等の地域性を考慮した構成とする。

(3) うわじま
ん、うわぶた
い、うわカーゴ
について

- ・基本理念にもある「地域の歴史文化の共創」を促すため、宇和島の自慢できるモノを市民自らが展示できる機能や気軽に立ち寄れる場所としての機能を設けることに加え、将来的には市民に展示設備を貸出しして、活動の場を博物館外に広げるなどの事業も計画する。

(4) キッズス
ペースについて

- ・宇和島（南予地方）の歴史・文化にちなんだ遊びや地場産業をモチーフに開発した遊びを中心に、昔からの遊び等についても、今の子どもたちに伝えられるようにする。（牛鬼や八つ鹿、亥ノ子等の伝統行事、真珠や柑橘類等の地場産業、ビー玉やメンコ等の昔の遊び等）

2. 答申に係る
進言について

- ・常設展示は、伊達博物館の新たなキーポイントになると考える。隠れた歴史のエピソードは数多く存在するので、常設とはいえ、学芸員、地域の関係者、有識者等のアイデアや新たな発見等について、様々なきりくちで適宜更新できるようにする。また、常設展示については、中長期的に機材や内容を大規模に更新していけるようにする。
- ・「地域の歴史文化の再生、共創の象徴となるべき博物館」として持続可能な活動ができるように、博物館の事業展開や運営のあり方、具体的な方策は設計と並行して検討する。
- ・以上でございます。

委員長

・ありがとうございました。

(2) 協議事項

委員長

・それでは、(2) 協議に入ります。
・ただ今の答申の内容に対して、何か御質問ございませんか。

A 委員

・1階と2階とは全然役割が違うと思うんですけど、1階の展示について、季節ごととか、展示をある程度変えていく。もちろん変えてはいけない部分もあるとは思いますが、対外的な観光として、市民が憩いの場として、何度でも足を運んでもらいたいというのなら、どのような方法で展示替えをしようと考えているのでしょうか。

委員長

・常設展示が出来上がった後、展示計画、展示構成が変わるのか、という御質問かと思えます。丹青社さん御説明よろしいですか。

丹青社

・2階の企画展示につきましては、現在の伊達博物館でも年に6回くらい展示更新していて、展示物が変わって見せられていると思います。
・1階の常設展示では、「うわ！じまん」の所で常日頃から、市民の情報ははじめ、最新情報を定期的に反映します。
・「うわぶたい」では、お祭り等の八つ鹿や牛鬼、宇和島の四季折々の情報がわかるような更新の仕方をします。
・キッズスペース遊具は、ある程度一定の物になると思うが、週替わり、月替わりで交換し、遊具をたくさん用意して、いろいろな組み合わせで出していきます。
・トピック展示は、いろんな出来事、学芸員の研究発表等という形で設計しようとしています。

委員長

・ありがとうございました。ほか、御意見ございますか。

- B 委員
- ・宇和島の前史で、城郭調査をされたりしている地域の方々が三間、津島にいらっしゃる。地図に写して展示したりするのもいいんじゃないかと思います。
- 委員長
- ・ありがとうございます。委員会の発足当初からの議論として、宇和島の歴史は伊達家だけじゃないっていう指摘がありました。常設展で、いろんなコンテンツで、うまく工夫して考えていけたらと思います。ほか、御意見ございますか。
- C 委員
- ・一番のポイントは1階の常設展示だろうと思うんです。今までなかった1階のスペースを利用して、地域の人たちがリピーターとして来てくれないと。地元の方は1回見たら、変化がないと来てくれない。ここにたくさんの人に来てもらって、にぎわいが出るのが重要だろうと思うんです。いろいろな団体とか個人とか、いろいろな知恵を出し合うのが大事なと思います。
- 委員長
- ・ありがとうございます。今の御発言は、この答申に盛り込んでいただいたものになっているように思います。ほか、御意見ございますか。
 - ・それでは、この答申につきまして採決いたします。賛成の方は挙手を願います。
- 一同
- ・(全員挙手)
- 委員長
- ・では、全員賛成ということで。
 - ・建替委員会におきましては、丹青社が提案した「新伊達博物館展示構成」を承認したものとさせていただきます。この展示構成につきましては、今後ワークショップやパブリックコメントを実施し、多くの皆さんの意見を反映して正式な展示構成としたいと存じます。今後の予定につきまして、事務局から報告願います。

事務局

- ・ 11月23日（水・祝）午後1時30分から、中央公民館において、「みんなで隈研吾さんと一緒に考えよう新しい伊達博物館」と題してワークショップを開催します。
- ・ 展示構成（案）のパブリックコメントを、令和4年11月28日（月）から12月23日（金）で実施する予定です。パブリックコメントの結果が出ましたら、建替委員会で御報告いたします。

委員長

- ・ ありがとうございます。

(3) その他

委員長

- ・ では、議事（3）その他に移ります。
- ・ 何かございませんか。
- ・ 御意見ございませんでしたら本日の委員会は、以上で閉会いたします。
- ・ ありがとうございました。